



平成21年度

第7回 全国環境連 全国大会

～ふるさとの健やかな水循環 清化槽～

2009.10.16(fri) 鹿児島サンロイヤルホテル 鹿児島市与次郎1丁目8-10

- 主 催 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
- 後 援 環境庁 鹿児島県 鹿児島市 鹿児島県市長会 鹿児島県町村会
- 協 賛 財団法人日本環境整備教育センター 社団法人全国清化槽団体連合会 全国清化槽推進市町村協議会
財団法人鹿児島県環境検査センター 社団法人鹿児島県環境保全協会 鹿児島県清化槽推進市町村協議会
- 開催担当 全国環境連九州地区協議会（鹿児島県環境整備事業協同組合）

第7回全国環境連全国大会の開催にあたって

本日は、環境省、農林水産省をはじめ、国会議員の先生方、また、鹿児島県・鹿児島市など多くの行政や議会、そして業界関係機関・団体など多数の方々のご臨席のもと、全国各地から業を同じくする仲間が鹿児島の地に一堂に会し、このように盛大に大会を開催できることは誠に意義深く、また、大きな慶びで御座います。

「ようこそ鹿児島へおいでいただきました。誠に、ありがとうございます」

さて、昨年始まったアメリカ発の世界的な金融危機や景況悪化は、国際協調による財政出動や金融政策により、世界の景況感は底入れから改善の方向が示唆されています。

中国・日本など東南アジアの実質GDPは、今年中に、アメリカやEUを抜いて世界の中心・勢力団は、アメリカ、EU圏でなくなるとも言われています。そして日本の景気回復こそが世界の不況を終焉させられる鍵であり、小さいがアジアの中で一目おかれる国づくりが喫緊の課題と言われています。しかし、日本では、近時、政権交代があり、景況感は二番底への懸念など不透明感が強まっています。

今や、国内外の情勢はともに「混迷」という表現がピッタリの状況にあると言えるのではないかでしょうか。

ところで、私達が携わっている業務は、人間生活に最も身近でベーシックな業務で一日たりとも忽せにできない重要な業務あります。それだけに私たちは、業務に対し使命感と責任そして誇りをもって、確実に継続的に安定的に遂行し続けなければなりません。

先般、ある信用調査会社が“長生きの企業”についての調査結果を明らかにしましたが、創業から最も古い企業は飛鳥時代に創業し1400年以上の歴史を誇るとありました。

100年以上の長寿会社は全国で2万1066社あったそうですが、統計的に見ると、会社の長生きのポイントは“本業の重視”“身の丈にあった経営”的なあります。

一方で、常に、社会や世の中の変化の予兆を敏感に捉え、先取りをし、それに備えること重要だとも言っています。

私は思います。「混迷」を深める昨今、私達は、自らの未来のために、また、子孫のために、志をもって今日できることを確実にやる必要があると思います。ポーランドの詩人・ゲオルグは言ったそうです。「たとえ、地球が明日滅びるとも、君は、今日リンゴの木を植える」と。

最後に、紙面を借り開催地鹿児島の組合理事長として一言。鹿児島は“史と景の国”と呼ばれ長い歴史と豊富な自然、そして美味しい食べ物や飲み物が豊か、加えて、人情味豊かな鹿児島県人が歓迎いたします。秋の薩摩路をご堪能いただければ幸いで御座います。

平成21年10月16日

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

会長 鳥越 澄夫

鹿児島県環境整備事業協同組合

理事長 鳥越 澄夫

祝 辞



自由民主党環境整備議員連盟会長

Takeo Kawamura

衆議院議員 河村建夫

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第7回全国大会のご盛会を心からお慶び申し上げます。

日頃から、全国環境連の皆様は一般廃棄物の適正な処理に努め、わが国の良質な水循環の確保と生活環境の保全に多大なご尽力を賜っておりますことに対し、深く敬意を表すると共に感謝を申し上げます。

私は去る、10月5日の自由民主党環境整備議員連盟総会におきまして会長に就任いたしました河村建夫であります。

皆様方の力強いご支援をいただきながら3R「リデュース（廃棄物の発生抑制）リユース（再使用）リサイクル（再生利用）」の推進に鋭意取り組ませて頂いております。

また、今世紀は水と環境の世紀と言われており、地域の水循環を確保するためには、建設コストが安く、工事期間は短く、下水道並みの水処理能力を持った合併処理浄化槽整備の一層の推進を図るべきであります。

このような循環型社会形成をめざす時に当たり貴会が「ふるさとの健やかな水循環 済化槽」をテーマに全国大会を開催され情報交換並びに未来への決意を固められることは、まさに時宜を得たものであり大きな成果を期待するものであります。

そして循環型社会づくりを目指し実現するためには、永年生活環境の保全に尽力されてこられました全国環境連の会員の皆様方のこれまでに培つてこられた廃棄物処理に係わる知見と豊かな経験とともに、創造的で先進的なリサイクル技術や廃棄物処理方法の開発に挑戦していただきたいと存じます。

自由民主党といたしましては、懸案であった交付金の補助率引き上げを「省エネ型浄化槽の集中整備など地域における先進的なモデル事業に対して2分の1」に今年度より引き上げられましたが、今後はモデル事業のみでなく、一般的な浄化槽整備に対する交付金についても引き上げるよう政府に対して強く要望をいたしていく所存であります。

今後とも、清掃業務を通した豊富な経験と実績を踏まえ循環型社会形成の推進が図られますことを心から期待しております。

終わりに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の今後、ますますのご発展と会員の皆様方のご健勝を祈念してお祝いのご挨拶いたします。

祝辭



環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長

Ryutaro Yatsu

谷津 龍太郎

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の皆様には平素から全国各地で、一般廃棄物及び浄化槽行政の推進に格段の御協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

近年、廃棄物処理・リサイクルを取り巻く状況は、石油などの資源価格の変動や人々のライフスタイルの多様化など、大きく変化してきており、こうした変化に適切に対応しつつ、「持続可能な社会」を実現していくことが求められています。そのためには、企業や国民一人ひとりが、環境意識の向上を図り、自らの取り組みや現状を見つめ直して、日々の生活や取り組みなど足下から行動していくことが重要です。

そして、我が国では、この環境保全に向けた行動として、資源効率やエネルギー効率の高い事業を世界に先駆けて進めることにより、「循環型社会」、「低炭素社会」、「自然共生社会」を同時に実現することが必要と認識しています。

そのような中、浄化槽は、発生源で汚水を処理・排出することから、地域の水環境保全にも貢献するとともに、短期間で比較的安価に設置できるため汚水処理サービスの享受や水質改善効果の発現が早いことが大きな利点であります。今後、汚水処理施設の整備は人口分散地を中心となってまいりますが、環境保全効果はもとより経済性にも優れている浄化槽の役割はますます大きくなっていくものと認識しております。

環境省では、浄化槽の整備促進のため平成21年度予算より助成率1/2でのモデル事業を実施している所であります。また、単独処理浄化槽の撤去費支援につき、使用年数制限を大幅に緩和するとともに、市町村が定める浄化槽整備区域であればどこでも対象とするなど条件の撤廃に近い緩和を行っており、一層の転換が進んでいくものと期待しているところであります。

地域の水循環を確保し、公共用水域の水質保全を図ることで生活環境の保全、循環型社会の形成に寄与するため、浄化槽整備の一層の推進を図ってまいりますので、関係各位の更なる御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、一般廃棄物及び浄化槽事業の分野で貴法人並びに会員の皆様が、益々御活躍なされることを祈念申し上げます。

祝 辞



鹿児島県知事

Yuichiro Ito

伊藤祐一郎

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の第7回全国大会が、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、全国各地からお越しになられた皆様を心から歓迎いたします。

また、貴連合会会員の皆様には、日ごろから日常生活に密着した浄化槽の維持管理に御尽力を賜りますとともに、公衆衛生の向上と生活環境の保全に、多大な御貢献をいただいておりますことに、深く敬意を表します。

先般発表された、平成20年度末汚水処理人口普及状況によりますと全国の汚水処理施設の処理人口は、1億774万人となっており、これを総人口に対する割合で見た汚水処理人口普及率は、84.8%となっております。一方、市町村数で約7割を占める人口5万人未満の市町村における普及率は、未だ69.3%と低い水準にあります。このため、今後、中山間地域でも短期間で比較的安価に設置でき、経済性・効率性に優れている浄化槽の役割が、ますます大きくなっていくものと考えられます。

鹿児島県におきましては、「人と自然が調和する地球にやさしい社会づくり」を目指して、各種施策の推進に取り組んでいるところであります。本年3月には、「鹿児島県生活排水処理施設整備構想」を策定し、浄化槽をはじめとした生活排水処理施設の整備を促進し、公共用水域の水質保全と快適な生活環境の保全に努めることとしております。

地域の環境を守り、人々の快適な生活を維持する上で、浄化槽維持管理業者の方々の役割は大変重要であり、貴連合会会員の皆様におかれましては、浄化槽管理の専門家として、更に研さんを重ねられ、快適な生活環境づくりに寄与してくださいますよう期待しております。

なお、鹿児島県は、桜島や屋久島等の豊かな自然に加え、篤姫を育んだ歴史、文化、黒豚、焼酎など、「本物の素材」にあふれています。

ぜひ、お時間が許す限り、「本物。鹿児島県」を御堪能いただきたいと思います。

終わりに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の今後ますますの御発展と、会員の皆様方の御健勝・御活躍を祈念いたします。

祝辭



鹿児島市長

Hiroyuki Mori

森 博幸

本日は、第7回全国環境連全国大会が、鹿児島市におきまして盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国各地からお越しの皆様方を60万市民を代表して心から歓迎いたします。

皆様方におかれましては、平素から、適正な廃棄物処理を通じて、良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に大きく貢献いただいておりますことに、衷心より感謝申し上げます。

さて今日、地球温暖化をはじめとする環境問題が、深刻かつ喫緊の課題となっております。このようなかつ、本市におきましては昨年10月、市民との協働により環境にやさしい持続可能なまちを築いていくことを目指して、「かごしま環境都市宣言」を行いました。そして、まちづくりのあらゆる分野で、可能な限り環境の視点を重視した取り組みを進めているところです。

なかでも、環境学習やリサイクル活動の拠点施設としてオープンした「かごしま環境未来館」は、予想を大きく上回る方にご利用いただいており、市民の皆様の環境に対する関心の高まりを強く感じております。また、全国で初めての本格的な市電軌道敷緑化事業は、「緑の都市賞」の国土交通大臣賞を受賞するなど、内外から高い評価をいただいているところです。

本市の水環境につきましては、甲突川源流の甲突池が「平成の名水百選」に選ばれるなど、豊かな自然の中で、鹿児島市水環境計画（清流と水辺のプラン）に基づき、公共下水道や浄化槽の普及及び広報・啓発、環境教育の推進に努めています。

特に、浄化槽につきましては、単独処理浄化槽及び汲取り便槽を生活排水対策上の重点課題と捉え、合併処理浄化槽への積極的な転換を推進しております。その結果、市内のすべての河川の基準点でBOD（水の汚れの指標）の環境基準を達成しております。

水は多くの命を育む源であり、まちに潤いと安らぎを与え、市民生活や都市活動を支える不可欠な資源です。会員の皆様方におかれましては、本大会のテーマにも掲げておられます水循環の確保を含め、循環型の社会づくり実現のため、今後ともより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ところで、本市は、雄大な桜島と波静かな錦江湾に代表される美しい自然、豊かな歴史・文化などを有する国際観光都市です。市内各地に湧き出る天然温泉や、多彩な郷土料理、本格焼酎といった味覚もあり、皆様方には、この機会に、秋の薩摩路を存分にご堪能いただきたいと存じます。

結びに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の更なるご発展と、皆様のなお一層のご活躍を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

祝 辞



財団法人日本環境整備教育センター理事長

Fumio Iriyama

入山文郎

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第7回全国大会が、「ふるさとの健やかな水循環　浄化槽」をテーマに、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

貴連合会と傘下の会員の皆様は、一般廃棄物の適正処理と循環型社会の実現を目指し、わが国の良質な水環境の確保と公衆衛生の向上に大きく貢献されておられますことに、深く敬意を表す次第です。

また、私ども日本環境整備教育センターの事業推進に対し、常日頃より格別なるご協力、ご支援を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

さて、21世紀は「環境の世紀」「水の世紀」といわれています。今年3月には「第5回世界水フォーラム」がトルコのイスタンブールで開催され、閣僚声明では、水資源への管理における国際協力を強化し、安全な飲料水や衛生環境を確保することを呼びかけています。また、6月にはシンガポールで「アジア太平洋水フォーラム」が開催され、アジア太平洋地域の衛生普及拠点の日本への設置が決まり、浄化槽、下水道、し尿処理に関する拠点が日本国内に立ち上がりました。このように、環境問題、水と衛生の問題について、世界的に関心が寄せられ、諸問題の解決に向けた取り組みの機運が高まっており、水環境に携わる私たちの役割はますます重要になってきています。

こうした中、浄化槽は、生活排水を処理する投資効率の高い恒久施設として明確に位置づけられるとともに、地域における生活排水対策の柱として、また、有効な循環型施設として水環境の保全に貢献し、社会的な評価を高めてきました。自然の水循環を活かしながら汚水処理を行う浄化槽の普及は、環境の世紀、水の世紀にふさわしい汚水処理システムとして、一層注目されるものと確信しています。

当教育センターは、浄化槽に係る教育研究機関として、今まで、微力ながら浄化槽対策の推進、向上に努めて参りました。また、浄化槽関係技術者を対象とした継続学習(CPD)制度を創設し、それぞれの技術者の社会的信頼性を高め、良質なサービスを提供して社会に貢献してまいりたいと考えています。今後とも浄化槽事業発展のため、一層の努力を致す所存でございますので皆様方におかれましても引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会の今後ますますのご発展、ご活躍を心から期待申し上げますとともにご参加の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辭



社団法人 全国浄化槽団体連合会会長

Tetsuo Matsushita

松下鉄男

貴連合会「第7回全国大会」の開催を、心からお祝い申し上げます。

6年前、貴連合会は、「相互扶助の精神」「知性と良心」「自由闊達な建設的議論」「相互の人格と個性の尊重」「民主的運営」等を基本理念として、新たな船出をされました。以来、我が国の健全で恵み豊かな生活環境の確保に大きく貢献してこられましたが、今年も、全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会され、新たに「ふるさとの健やかな水循環 済化槽」をテーマに、循環型社会づくりを実現するための決意を表明されております。

21世紀は世界的観点から「水」問題がクローズアップされる時代です。「水資源確保」は、日本の国家戦略の一つと言うべきもので、また、「環境保全上も健全な水循環を構築するためには、浄化槽の果たす役割が大きい」ことを考えますと、今大会のテーマは誠に時宜を得たものと、深く敬意を表するものであります。

さて、私ども社団法人 全国浄化槽団体連合会は、今年「法人許可30周年」を迎えました。これも、ご指導ご高配を賜っております皆様方のおかげと、厚く御礼を申し上げます。今後も、「環境にも財政にも優しく、経済にも強い浄化槽」の普及・発展に向けて、国・国会議員・地方公共団体のご指導を仰ぎつつ、浄化槽関係団体と協調し相連携して、常に「大局的見地」から目的達成を図らねばならない、と決意を新たに致しております。

一方、折からの未曾有の経済危機の中、浄化槽を取り巻く状況は、このままでは益々厳しくなっていくことは、皆様ご承知のとおりです。是非、「浄化槽で日本版グリーン・ニューディールを盛り上げていきたい」ものであります。

幸い、前斎藤環境大臣はじめ皆様のご尽力により、全浄連が毎年要望してまいりました浄化槽整備事業の「国庫助成率引上げ」が、モデル事業を先駆けに実現したことは画期的なことであり、今後、全体に拡大されるよう、要望してまいります。

加えて、単独廃絶、合併処理浄化槽への転換・新設は、喫緊の課題であります。現在、全浄連では「合併処理浄化槽への転換推進」を目指し、浄化槽法一部改正を見据えた検討を鋭意行っております。取纏め次第、国と国会議員各位に強く働きかけてまいりたいと存じます。何れも難しい問題ですが、今後、全浄連が取組むべき最重要課題として、将来に向け皆様と共に手を携えてまいりたいと考えます。

世の中は大きく動きつつありますが、未永い日本の繁栄を築くとともに、身近な美しい水環境を守り、これを子や孫の代にしっかりと引継ぐことは私達に課せられた永遠の責務であります。全浄連は、常に大局的な見地に立って、後世に評価される行動をしていくことを肝に銘じながら、その実現に努力している決意でありますので、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。

大会の目的

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界の取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。そのため「合特法」（下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法）の趣旨を踏まえた転換業務（補償）の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々がこの難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。今後は、絶え間ないイノベーション（技術革新）で、業界の未来は開かれるという信念のもと、創造性を備えた先進的なりサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。

その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思いきった意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、今世紀は水と環境の世紀といわれ、地域の水循環を確保するため、水処理能力及び経済効率性の優れた合併処理浄化槽整備の一層の推進を図るべきである。

本大会は、「ふるさとの健やかな水循環　浄化槽」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、循環型の社会づくりを目指し実現するための我々の強い決意をここに表明するものである。



大会式典

13:30 ~ 14:30 (2階太陽・開聞の間)

1. 開会の辞

2. 物故者に対する黙祷

3. 大会式辞

4. 優良役員・従業員表彰

5. 受賞者代表謝辞



6. 政府に対する要望決議

7. 大会スローガン発表

8. 大会宣言

9. 来賓祝辞

10. 祝電披露

11. 閉会の辞



次の講演は、この会場で14時45分から開会します

政府に対する要望決議

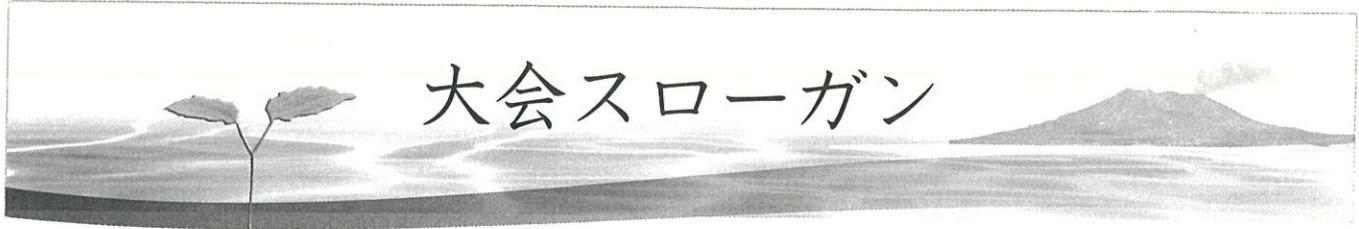
私達、一般廃棄物処理業者は今まで、市町村の自治事務の代行者として長年ただひたすらに、廃棄物の適正処理に取組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を抱いております。そのため私達は、「合特法」に基づいて転換業務(補償)獲得を市町村に要求していくものであります。

そのうえで、経営の安定を維持し、廃棄物の適正処理を全うし循環型の社会づくりの実現を図って参りたいと存じます。つきましては、何卒、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

記

- 1) 下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務(補償)の獲得またPFI事業による浄化槽市町村整備推進事業の維持管理については「合特法」の目的に配慮されるよう市町村において適切な対策が講じられますよう指導されたいこと。
- 2) 浄化槽の維持管理に係る指定管理者制度の運用については、浄化槽の保守点検及び清掃を適切に実施し、浄化槽の正常な機能が確保されるよう、業者の選定等に関して、地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。
- 3) 政府は、平成20年5月「第3期科学技術基本計画(平成18~22年度)」の見直しを行い「革新的技術戦略」として取りまとめました。
そこで、技術革新の可能性のある浄化槽の分野についても、浄化槽の最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用などの課題に着目し、イノベーション(技術革新)創出を導き出す研究開発を重点的に推進するための措置を講じられたいこと。
- 4) 污水処理施設の整備(下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再生処理センター)については、地方公共団体の財政が逼迫していることから、人口減少を考慮した経済的、効率的な整備が推進されるよう指導されたいこと。
- 5) ディスポーザーの普及に伴い、水質保全の観点から、その排水処理システムの確立及び維持管理については速やかに法体系の整備を図られたいこと。
- 6) 一般廃棄物処理計画に基づき、一般廃棄物の適正な処理が確保されている場合には、新たな業の許可はいたずらに過当競争等を招き、ひいては適正な処理が困難となるおそれがあつたため、既存の適正規模の処理施設や体制を維持するよう地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。



大会スローガン

1. 下水道の整備の進捗に伴う転換業務（補償）獲得
1. 不法・不当な新規許可の絶対反対と委託・許可制度の適正な運用
1. 生活排水対策に優れた浄化槽の適正な維持管理を図る
1. イノベーション（技術革新）による事業の安定的発展と循環型社会づくりを実現するため3R活動の一層の推進
1. 情報収集システムの構築と情報提供の充実強化
1. 組織の充実強化と次世代を担う人材の育成
1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の充実

大会宣言

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界を取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。

そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換業務（補償）の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々がこの難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

今後は、絶え間ないイノベーション（技術革新）で、業界の未来は開かれるという信念のもと、創造性を備えた先進的なりサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。

その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思いきった意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、今世紀は水と環境の世紀と言われ、地域の水循環を確保するため、水処理能力及び経済効率性の優れた合併処理浄化槽整備の一層の推進を図るべきである。

本大会は、「ふるさとの健やかな水循環　浄化槽」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、循環型社会づくりを目指すものである。

さらに、私たちは組織拡大を図りながら強固な団結と協調のもと全国環境連の基本理念を実現することを誓うものである。

以上 宣言する。

平成21年10月16日

第 7 回 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
全 国 大 会



講演

14:45～16:45(2階太陽・開聞の間)

講演I 14:45～15:35

演題 「一般廃棄物行政の課題について」

講師 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
廃棄物対策課長 德田博保氏

■講師のプロフィール■

昭和55年に京都大学大学院を卒業し環境庁に入庁。海外経済協力基金(現JICA)、国連大学、アジア開発銀行(マニラ)、地球環境戦略研究機関に出向し、海外における環境対策にも従事。厚生労働省水道水質管理室長、環境省環境研究技術室長、環境保全対策課長、地球温暖化対策課長等を経て、平成21年7月から廃棄物対策課長。

講演II 15:40～16:30

演題 「下水道財政の現状と課題」

講師 総務省自治財政局公営企業課
地域企業経営企画室長 平川薰氏

■講師のプロフィール■

昭和62年に東京大学を卒業し、自治省(当時)に入省。その後岡山県市町村課勤務、参議院法制局勤務などを経て、岩手県労政能力開発課長、同県地方振興課長、徳島県財政課長を歴任。その間、自治省においては、主に選挙関係業務を担当し、平成14年に総務省自治行政局選挙部選挙課理事官。平成16年からの5年間は内閣法制局第三部参事官、平成21年7月から地域企業経営企画室長。

次の懇親会は、この会場で17時30分から開会します

■薩摩琵琶■

薩摩琵琶は鎌倉時代、島津家初代忠久に伴って南九州へ下向した盲僧宝山検校に由来する。戦国の時代に島津日新公が青少年の德育のため自ら歌詞を作詞し、盲僧の用いる琵琶を改良して武士の子弟に流行らせたのが始りとされ、今日に至る。鹿児島県指定重要無形文化財。

本日は加治木島津家第13代当主であり島津義弘公を祀っている精矛神社の神主でもある島津義秀氏が弾奏いたします。

懇親会

17:30～19:30（2階太陽・開闢・高隈の間）

1. 開会のことば

2. 主催者あいさつ

3. 来賓あいさつ

4. 乾　　杯

～～（開　宴）～～～

5. 来賓のご紹介

奄美における「しま」という言葉は必ずしもアイランドを意味しません。ふるさと、郷土、出身地などを指して言う場合が多く、「しまうた」とは、奄美の唄という総称の意味もありますが、より比重が置かれるのは、自分の村（集落）の唄ということです。つまりあらゆる「しまじま」（村々）に、その「しま」独特の唄があります。これは、その地勢や人情風俗によって微妙な違いを見せます。

本日は、喜界町出身の唄者 永 志保（ながいしほ）さんが唄います。

（島唄）

6. 次期開催担当組合あいさつ

7. 中締め

8. 閉会のことば

日本舞踊協会は、古典と新作の両輪により活性化・発展を続けています。

桜島・錦江湾・霧島を心に秘めたさつま400年の伝統の舞踊集団「芳梅」と新しい鹿児島の息吹を感動的に踊る創作舞踊集団「創エルグ」のコラボレーションによる公演です。

本日は、師範 芳樟芳梅代表率いる「芳梅」と池田淳子代表率いる「創エルグ」による「元気」「楽しさ」「感動」のコラボレーションでお楽しみください。

（ダンス&舞踊）



第7回 全国環境連全国大会

～ふるさとの健やかな水循環 清化槽～

鹿児島県環境整備事業協同組合

〒892-0836 鹿児島市錦江町 11-40

TEL 099-225-7290

FAX 099-225-3750

(表紙の写真)

桜島の噴火 / 鹿児島地方気象台 (1990年12月4日 午前4時52分)



再生紙と植物油インキを使用して印刷しております。